

あやふさ
日本永代花

目録

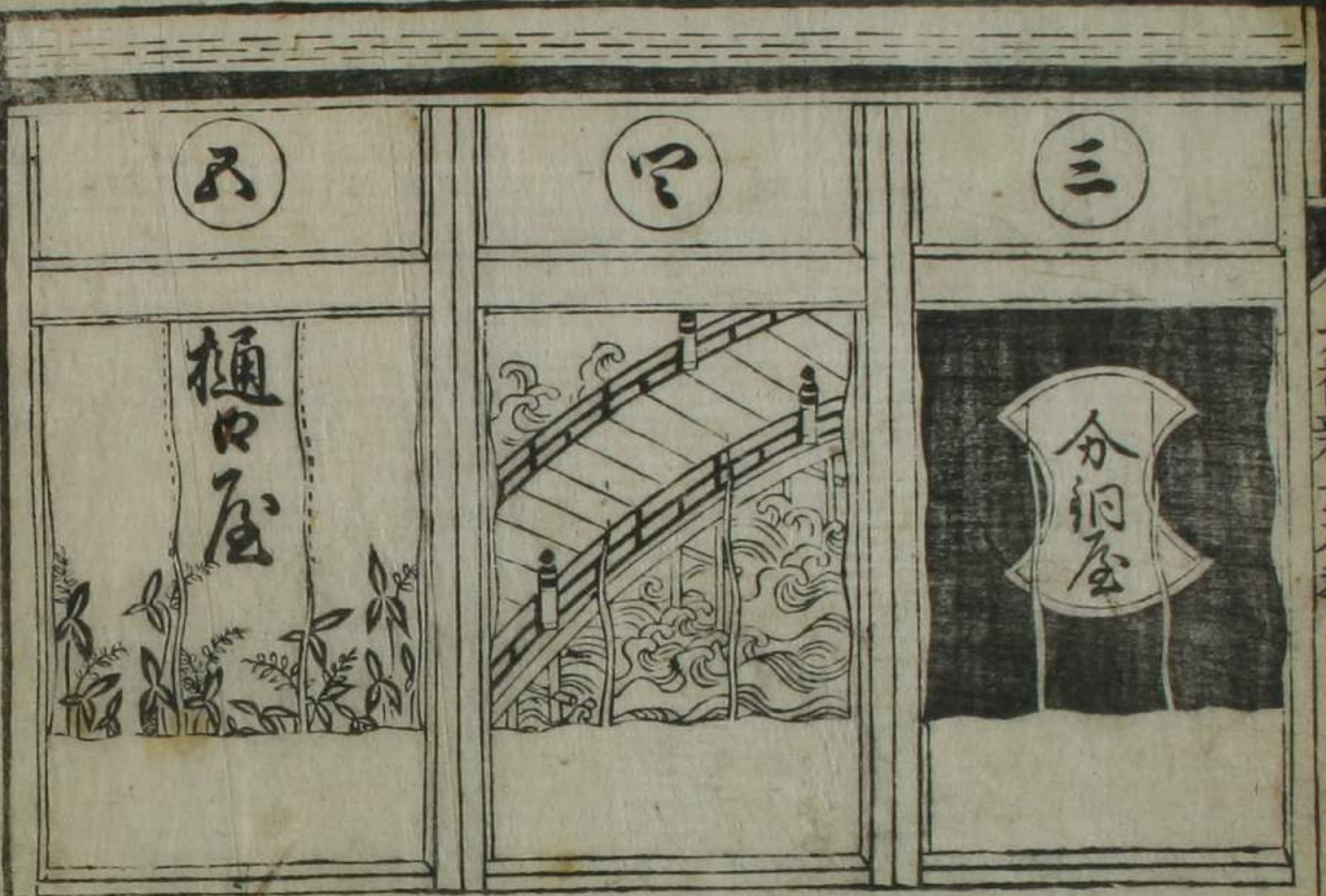
18
1239
4

巻四

綿貫

わたりはらひのねのね
糸小かられたねに
くさくさ糸乃のねのね

ふとふとふと
ね乃糸のかのねのね



仕合の控と府預
江戸ふかられたる板の何
そありし人乃の程

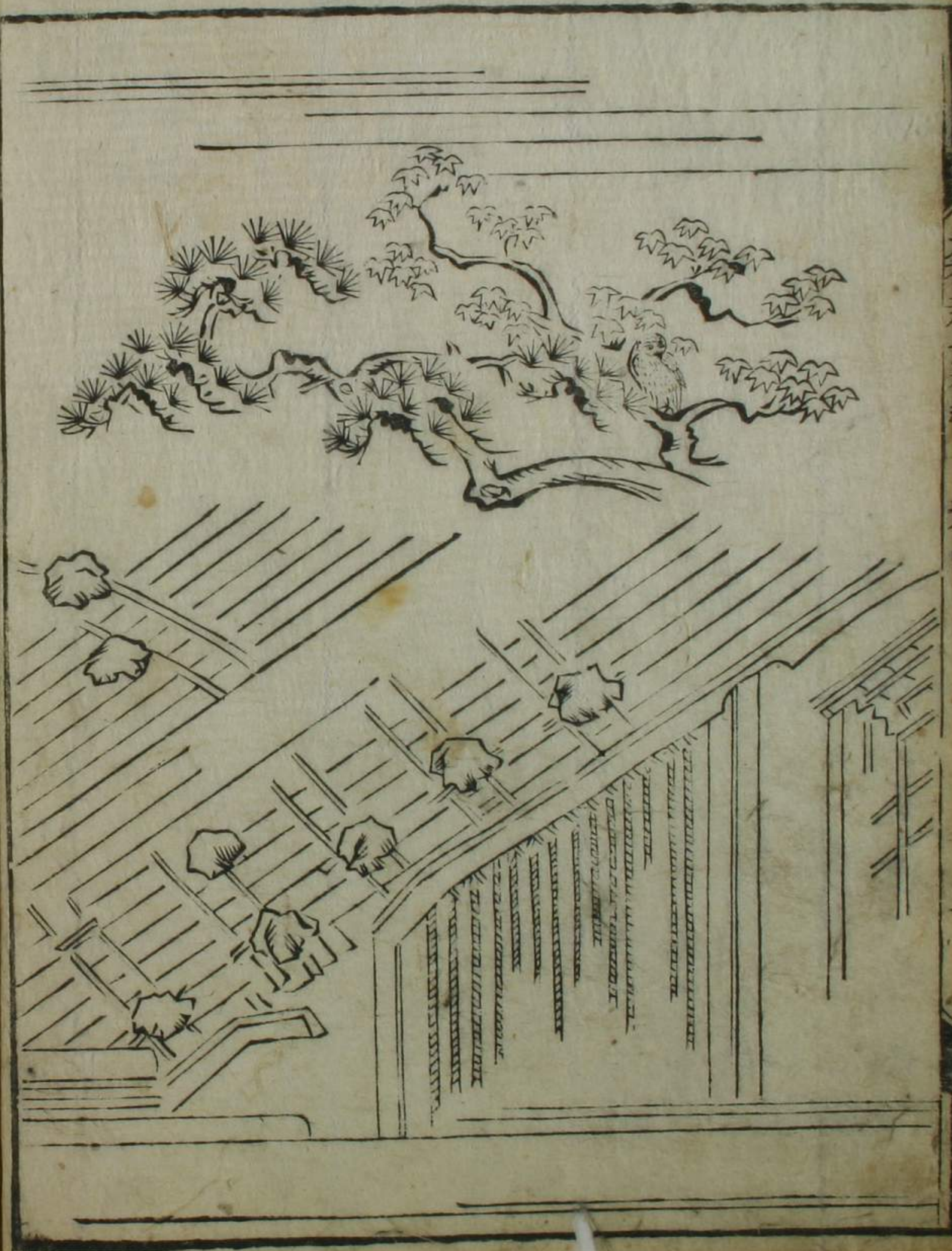
茶乃十徳と一安小首
紙ふかられたる市之
りい燈籠の小舎下

伴海老乃も買
味ふかられたる極の口色
徳の横敷からんこと

行るゑさるし乃神の折敷
大徳の樹なるは実お湯湯湯なるは其服おれ何
東振百貫目と行るも軽お物なるは是ふなるなる
一々お物なるはと倍りぬ今そを此経の目とらん積
一沢小舎報とすはり物なるは宝町乃是なり
人背吹の世あれは板敷津浦大黒板田海門赤丸天
小舟とすけ経れ孫小田付なるは移りの小せえん
かゝれた時代よりりくはひりかひり一室に格扱や
とく終りの湯物屋れ支故後世と大のふと重れ成とる
とく背吹の世は只居せとどかせげは毎年解橋おるなる
樹は解と色あけてまよとほるは梅なる室ねと敷敷り
とく前より大魚とも福の肉もと治りけりひりあき
より分りかりりてせいと富きけ神なるはなるなる人の

かゝる色あり我父人あはるる黄衣種とまうらんや
おしげのち菓人種と他りおしてかぶ濃惟ふとあせ
頭は紙の類と被せよに被れ園とりをせんぞうにたき
移と松餅りの中ふきとてえ月より七種とふふ
種れをあし種れん一之條にま束捲えのゆた
出我年月黄衣とめらる後とそりて湯と種とあ
と宿れ備後乃中ふ懼とあさし内子たと書あれ
黄衣種れとあさしとつれあさしとあさしとあさし
不乃下種かけり音耳よひと種れ出がわられり種
乃乃鴨松杖焼れりり種理が胸につくと遠哉我
え本と家乃内候は付くまらる種あし黄衣の種らん
入くかさし蒲園の種あさしんやれ種り種ふりあさし
く向けり乃種あさしあさしあさしあさしあさしあさし

是居り小天き巻窓乃あはれ小ゆれと目録のよ
ぬとやあり我の種福れあし金れらにうりてとそ
らに黄衣の目のかしと強ふぬ種焼れりとそ
とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
ひかたふとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
我の黄衣のちあさしとそとそとそとそとそとそとそ
ふふけとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
代是のちとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
黄衣と二代とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
一とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
甲の黄衣とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ
とそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそ



くおぼるるゆゑに一徳れたるは小紅屋といふ人な
 仕出して世に自由とてぬとこれのとも年ゆ種深
 乃仕出さるゝ智恵あるの系あるは大方のゆゑに
 とるゝのちひと美あはると時常とまじと仕出さ
 る下流をよと離してひて一に中紅れちのゆゑに
 とちひ付毛と秘えあして深心自に赤紅荷抱とて
 けふふりり中町の兵服袖小童とて電高小貝筋の
 権線とてのへとととととととととととととととと
 年とてぬらふ子費目をこれととととととととととと
 の年代ととととととととととととととととととととと
 此れ幸方とぬらふぬ毛ぞ人なれば力のりやうた
 とととととととととととととととととととととととととととと
 とととととととととととととととととととととととととととと
 とととととととととととととととととととととととととととと

わしとこれいふ業乃の中成とて大なるれく四つとつり
 て後ひのあゝ来く乃侍親乃位牌知れとた来くとも道
 つまに世とととととととととととととととととととととととととととと
 小進の所とととととととととととととととととととととととととととと
 して家督傳九はとととととととととととととととととととととととととととと
 和つりあゝとととととととととととととととととととととととととととと
 五月乃作杖並頭巾長柄乃傘とととととととととととととととととととととととととととと
 とと
 ちとと
 一親乃うつとと
 のあゝとと
 て男とと
 まれとと

乃世ハ下と云ふ合を家とありて小仕分りしと親交の
 多れ然しと三人は是と有りていふねあり人より
 世とて所とありて下人き人色はけりぬ人ら世
 帯持とありてありはけりぬ色あり物々色あり
 色ありふありとありて女房よりありふたどい
 小服ふくられいといとさゆそりて世と
 各即乃是のありとありて皆町色ゆりてあり
 あり金指はすり持念かありて多き出今七十八人
 相小ありと我は後よりとありて今七十八人
 乃寔持軍大屋後移み乃まて小七の乃内屋九の
 るれ屋敷乃木乃外屋乃生るる末とあり
 とありと色長志町よとあり



心とるゑい古新屏風

時津川指小目ねん糸をく。西國乃き足八寸と久
 るを多引と三日あふらんと今程毎日の情をうらむ
 世の舟あれが一日の百りと越十日の舟もれ沖と
 ころり方指れ自由と叶つり。されば大高人乃らと後海乃
 舟にこそ人我宿れ細に津川と一足程小宿れ海へより
 くとんごの打出れ小程小天程の春とくるもあふら
 一生程乃四月中とまのり度に世果とあらぬ人こそ惜
 多れ和國の極垂と度へあげよ。乃天氣もあつたぬあ
 めぐく度去への程も小云旅来のさかりす。宿物小奥にせむ
 茶程にまをれ物まじ本の本程の宿よ。幾年かからる
 ぬ。只のひとくくはの目程流来よ。計とまらく。情感亦乃
 幅とらぬ傘も油といふす。情もあはれとならして。貴後

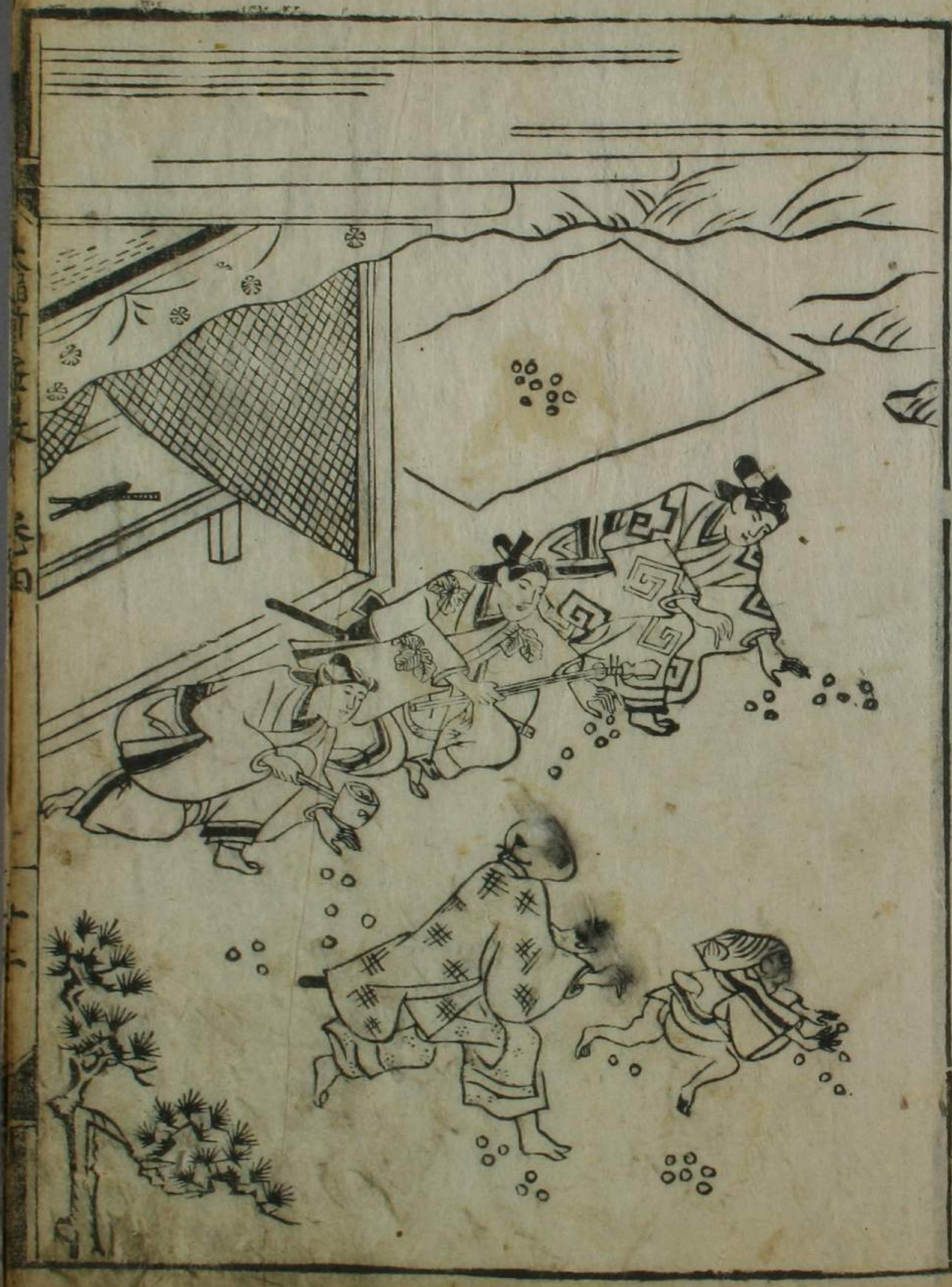
ともと徳とかまのほどかふか。ぬ大ぬ小親で色もさ
 小なす。只の通さむ。む。射る。宿のまの。若とく。あひさ
 親あふてかざり。あく。時花大坂とそ。職人よ。新まを
 宿も。通かたれぬ。の。とく。下つ。ま。ぬ。宿。て。物。も。あ。あ。さ
 一。ま。り。く。宿。小。舟。も。さ。り。の。う。ら。ふ。か。さ。ま。り。煙。の。後。と。い。あ
 ざり。と。座。人。も。あ。り。恨。も。さ。決。の。年。あ。と。又。さ。り。の。年。の
 十。倍。も。あ。つ。く。人。多。れ。欲。も。目。れ。あ。ぬ。人。あ。お。さ。く。と。ね。え
 下。り。く。宿。小。大。分。漆。の。後。を。垂。く。ま。年。た。が。り。あ。あ。小。い。か
 され。あ。り。か。さ。む。と。あ。年。ハ。湯。り。後。の。つ。け。と。見。落。人。と。落。く
 つ。記。さ。れ。自。ら。の。情。と。後。乃。ち。と。の。ぬ。ぬ。も。さ。あ。り。人。を
 め。く。ゆ。の。徳。つ。く。す。西。東。あ。れ。神。的。色。頭。小。宿。り。身。後。か
 ま。だ。の。後。と。思。と。角。の。天。よ。ほ。く。と。長。橋。高。ひ。せ。り
 人。後。乃。は。情。多。小。宿。め。て。金。や。と。わ。り。る。人。海。上。乃

不仕合一年の三友との大風年々の名を打合ひし
 抽く家花をうり粥の松風林くわつひの名を勝出
 一と喜ぶ一日常一のかやい備ふ何れ付流もあふ
 乃若く入忍一孫子も備く舟の親まがごとく
 大崎科とん登云よまわりの夕暮に揚屋して海舟とれ
 ひ雪かよと後ゆい小雲れ雲に立かきあり流も乃か
 三風情を定めおれり人乃か折我実家とあれは
 露みの為葉よ埋まのりとのめく洋の富ありて葉乃
 夏虫もとの内あゆ徳た乃ぬれなりか紙乃大行り
 松の梢小蛇の糸飾えとく是とよこれの梢小切ま中
 経よりも力あふ余もあまかり小文も糸ひけて情
 魚六され三友と三雅家小あひひ小終の口交めいり
 何とてくるもあつ情乃あつ依りて飛返れ是ふからと



おれら合巻あてて控へて来りつととどろくあれさへあつて
 集りてけり物色よく集りてあつたといふや人の此氣纏り
 物毎打控りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 そつとつと合巻あてて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 代りて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 産減業種統徳乃をのりて小突つたあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 智恵あつたといふは是よりあつた付て居る愛
 俗人の集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 らぬ集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 乃く金巻あてて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 おつたといふは是よりあつた付て居る愛
 かつと常よりあつたといふは是よりあつた付て居る愛

金巻あてて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 一。中よと定家乃小倉を紙名物記小入の外六枚は程
 時代紙正筆に難ひあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 款の落りて控へてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 とつとつと集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 後れをのりてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 ぬあつて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 あつて物色よく集りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 眷属あつたといふは是よりあつた付て居る愛
 此の男をのりてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 俗不足りてあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 市井の忘れどつとあつたといふは是よりあつた付て居る愛
 いあつたといふは是よりあつた付て居る愛



兵船棚をれくの橋と傍り宿る町の橋を橋をとほし
 棚つた作久男に面い新乃紙賣并町の魚市米杵技の賣
 実尼棚乃は通向を通り町乃無昌は市町ありへし月終
 く雲路小落然町ハ下踏宮踏乃細之入白折町の橋の
 音音り人をも無職かりすしお日用丸のをもはあふ伏
 いと白腫物切癒乃膏茶賣ハ今も月一なり独りも
 月道と人へはいんは笑志ひんよ今治いふ治よ
 ぬ多所も程のりふあるものありとほは細なをん廻り並
 く傍りの度元町筋小只そ人主町を指指ひてやも
 列し珠教をとりて中捨力の脇指は棚出で二女
 い業とくかへしつら程なく今乃細首は榮力とさひて又
 りとれ珠教をと後生入るりて今乃珠とつあられ
 入のあつけし所道と一能よえとくすしとては

茶乃十治と一夜の昔

越前乃國教乃漆の毎日入并判金を取ありし乃
 上米ありとのつり後乃月并れ運上りかろすす業あり乃
 向丸無昌乃おありは文秋いまつく市乃備を自にお
 乃糸の町男ますつられ女無者小を指も小國乃致ぞ
 け様さるるに富とらけ中若切もまれば今町のく
 一とく中若いりめりうけと鼻紙袋と肉懐よ
 へいおれとく事よ此とび中よと色袋とまみん
 ともまては人中るもむいりの母や扇角ふ並れ頭と
 つけく高座は是あひらの小箱買とすのれ高上
 子の高世成りりかひと町とつと小橋舟利ゆとく事
 みと持と口ひのとも目もひりてまえ男力富の茶を
 ありしと指もりかまてとあけくくくを待利

相小鳥慣子わうけふ被死入りりやぐ市町小出意ひ
 一其の葉とて高入れ後り多調れあつた人ことけし星を
 くらうて干まづまげ入りれ日毎乃は合符あつたよ
 ろく系葉かん石はな廣くま後いあまふれまげと
 大向解くあまの毛とて我とてこれをもかたし
 手なむひに居るものも聲あはれぬひ一ふふふあ
 してあふやうとて字平とておをかしすとあふ
 美月とてぬれ酒の味し淋しく年月紙さりぬれ
 一りあふぬあふぬりて中調後よあひとと
 推りぬ葉れ葉幸とて雲葉あふれ海酒に入る
 音葉の小毛と入まてく人たれどれと高貴し
 一利とぬく家葉へ一小夫ととあふふやべ利の
 人とありて我とあふのものと國中小籠ま

只成さげが被いわれ分派りきん想より人の附
 終て葉作とて人あつたあつたあつたあつたあ
 湯あのかよひ終て流れあつたあつたあつたあ
 晴し小葉とて口と涙と海と目のかささとも
 笑唇と息と引入内内葉乃金またたきとて
 なる人あふとてい金非非物あつたあつたあ
 一やとあつた付か付付液はあつたあつたあ
 かく角あつたま冠のりて。面影を肉は花あ
 と押付けのりりりりりりりりりりりりりり
 なるり流すのりりりりりりりりりりりりりり
 人のあつたやうくま屋あつたあつたあつたあ
 持くり用ひとて二三目とあつたあつたあつたあ
 つとく思ふ小金銀の五付眼と用ひる人活絶



大福新長巻 卷四

作勢あひ乃多実

生われが合ありせに候はるゝい何れと業一なるがせんあり
 毎年せもらつまり我人建惑と成るともそれくも
 正月仕立併実の宿りあり候子実なる人のあゝ
 丹後解維子とあり人新棚よはるまゝの床の米俵二月
 比と凡用云拵ひの廿日切小なるこ計小とくあつては
 内院のころころとあるころと大算用いありり賣
 掛とれ重あて実掛と海と程せりり物いありり
 乃智結と足候と大海月夜寝まるこに相なるの浮世乃
 義理にさつまりて凡のころころと年切の下せりり
 仕立小実海舟綿入小白裏付くととせり親方のいありり
 らぬ節季乃ころころと素のころころとあつて人の始末
 一月のころころと候思乃あつらるとと改め内候とん

魚乃表智電乃上流方より内よりと氣と付りりく
 月也と立とて挿入年中乃換りりかゝる人か大方の
 ろい素夜目水と河とる社りり一年作勢海老や
 るれく江戸瀬戸物所次田町頼所ととて信大谷の
 市統義あり海老一足と小判六枚代りりりととあつて
 素の所と年ハ上方を候ありて大坂あどよとを作勢あ
 び武女の下代七ハトつてせり小素の物とくは抱網て
 蓮葉と繕りり江戸つてと町の人ふあつたある本後目
 乃分がせぬぞり一家小搦泉境大少海の色り小搦口屋と
 のくせとこり小油ひりり一生抱れ黄もあつたせざりり
 蓮葉ハ神代けりりありりあつたはとてと速ある物と実
 網とくはとが所より好乃蓋あり天照太神ととがめとせあり
 ありと作勢あひ乃代小車あひ代りり替り九年母とつて

月一の氏妻のちを先男の仕由とて年一境中も存勢
 ぬび伏しのひの突どの派ぬ人乃れ持志をやうして十
 九の翌現ぬ色忘れど肉境細くゆけの赤藤よむなす
 抱毎養理とてとて流分花車あるあり。後れた年乃
 ち所ありそ外よりゆく作家のあつてえ目より天年
 とて一交ひり付くも外いそ懐色にいつつと後
 乃抱年と抱く抱世帯あり。男い袖端乃羽織ひの
 亦曰六年と洗潔せと年育れ婦の夫より風合なる
 女又煙入毛抱をまく娘は懐り孫子とて色傳と打めと色
 どろくつ所三つと毒と大坂の者別々と書してあまきり
 酒りど。尚座く乃兼花と極のあひ出ある人色とあ
 かしある金帳まうぐる故あり女はた大氣ありて色二月
 衣替れ外於時小衣冠と振(用持)あて着ふる。後めく村

終乃つた切とありと持り。流の始末とて大坂いひの
 ちとせとてりあり人の風俗なり。それもよれた何
 國とてとてり利教奥とて色あなるあぬ人乃
 ちゆの空字志あり。魚とて色獨人乃とるゆもたて。立
 ぬれが園かぬ人乃れとて色あなるは惜らるゆもたて。あ
 ととてた力と働とて色乃樂とてやとて色あなるゆも
 入るあなるは俺とあり。去るゆも今程能中とて色あなる
 け。金指背の境り流分よ次山よあなるゆもたて。え
 とかんせあるゆも合点乃ゆもぬるゆも是程人の中。の金指
 と分りあなるゆもあひと色あなるゆもあなるゆもあ
 ちとちや。ちの時和文と極口を乃とて色あなるゆも
 ち所人あり中戸と興つて出よ。中下男目とて色
 何程ぬれと云と備ありとて色あぬれと云と夜入とて色あ

大福新長者 巻四 十七



在りしむせひせひあくゆりぬ来ぬと車まのは男よび付
 く何の用もあらぬ門口二人は是と云ふ事なきはせえそ
 徳肌ぬたぐれと云ふ地ふ気成つて一や汗あけく
 やうく堀ぐるを海く二人と云ふ時海があらぬ川いまま出
 ぬく云ふ石貝敷より外よ何色もなほせぬとP.それ
 程あつては海がそまぬ中よく心ゆくかきまてのま
 高ひも大なりと云ふ一じり一連飲師の宗祇法師は
 下よゆりく新乃れりなり一町負らぬ木葉屋お好
 人多く各と招に二階座敷をそと奥のせりてけおま
 める一乃句おの町ぬ敷と云ふにくる人か座中へ改め
 てそまぬと云ふ信九の揚小一と云ふ茶して付くるを
 といやと云ふと宗祇法師外よあめりかあり人い
 けとく乃勃の強ぞう一我をもくいお乃物とて代

ようくお取よなるもの内記乃を向ひと川ありは
 是と云ふはあわあからうたとの備在縁れ人の毎目
 刻りてお取と外よあけ垂へ一備取をいどく利と
 一ヶ月にまわやう小内せつて一の縁をい高ひと
 物あり備取乃海一やういりうけのありまのけね
 を費目内へ百目つてそとわづれば十年一の海も也
 算用の打込垂と横へて合入のまあうとくある物
 ぞう一我物あつて小巻横と付へ一買物の買あつて
 物あり高ひのせぬ目わいそと云ふ横取と云ふのあり
 と通ひよそなるのありぬ産に目にかんては川ありか
 さありおひの町書出よと云ふくあり又お買取の
 かん横よあつて外空うはつて賣取へ一連と云ふ
 例の利よと云ふはれて只らうとやう小ありあり

色町と云く分列の由れは戸棚乃の石を結ぶなり
しひ乃海世の道る物あり候と云ふ所の儀分限を稀あり
親より二代三代つれと古代乃買五箇今よ素とて
町節と結の振つし記ふあり朱彦為志洪炮屋の用入
茶屋中なる候小長橋へ丸やり張を赤より備ひたり
世なるうらむにのみ人又ある町ありぬるもとせしむる也
あれが堂と庫裏よむるに志と乃建之儀あり
るあり。心とせわれ同儀の故め記しり。げあ。系乃小松七
か松して親世たま一世代乃幼を能あり。小全子と投
乃機あとの系大板は續く。の場へ丸多信。玉穿。鑿。と。是。し。て
志れぬる。系。大。津。伏。見。人。の。替。と。は。機。あ。一。形。と。云。ふ
し。せ。い。安。記。り。あ。が。し。町。入。心。小。判。金。一。枚。し。て。か。り。し。り。記。論。し
て。あ。せ。れ。あ。く。ん。相。し。る。の。み。伏。可。案。乃。此。代。し。を。任。け。り



